

校再

江 戸 砂 子

芝 西窪
麻布 平尾

五上

柳
岩
熊
谷
印

再校江戸砂子溫故名跡誌卷之五

古

纂

緝

沾涼

恒足軒

再校

冬涉訂

正

吉

豊嶋郡麻布領

西窪

愛宕下

六

莊原郡
麻布

平尾

高輪

矢口

七

同郡品川領

二本楊

大井

池上

八

同郡品川領

鈴森

高輪

同

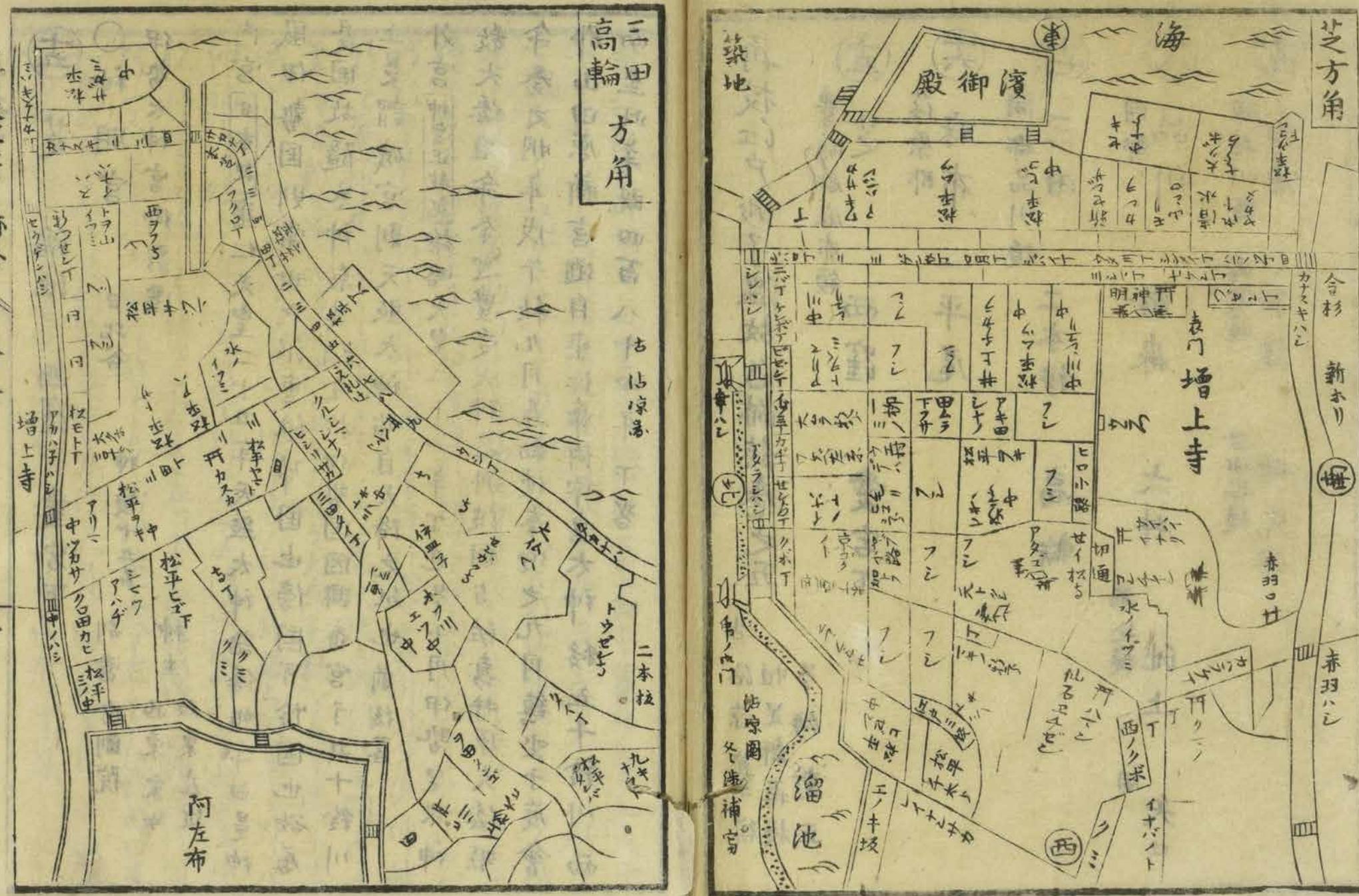
九

白金

同品川領 馬込領

目黑

世田谷領 碑文谷



五

芝

溜池

西窟

愛宕下

二

○神明宮 日比谷 神領十五石 別當金剛院
伊勢太神宮御影遷 神主 西東宋安
西東左近

内宮 日本紀 垣仁天皇二十九年天照太神誨俸姬命曰是神風伊勢國則常世之浪重浪歸國也傍國可伶國也欲居是國故隨太神教其祠立於伊勢國因興齋宮于五十鈴川上是謂磯宮則天照太神始自天降之處也前後畧

外宮 神皇正統記 雄略天皇二十一年丁巳冬十月伊勢皇太神教大倭姬命令迎豐受大神於丹波國与佐真井原大倭姬命奏之明年戊午秋九月差勅使奉迎之九月鎮坐于度會郡山田原新宮遡自壇仁帝御宇皇太神移五十鈴川西而至此年既四百八十四年下畧

當社飯倉神明宮ハ人皇十六代一條天皇御宇寛弘ニ至九月十日より御神幣と大牙一枚は地に降り人民あやじ所よ七歳はりの兒女ト伴してのまゝ我ハされ伊勢両宮の神とば域より信ひて宣揚スルより往々ありてある日後百させ誠持て後乎羽天皇連父四年源賴朝ト野小非須寺ノ義経向の時祈願ありて並劍と納一千三百萬貫の神田と焉所より神職執事と並之神光ハやう一日も小さんり百四代後土御内天皇明應三年伊勢新九郎氏茂相良小田原の城を大変更れどセー國より威とくの物焉社の神社と換スルより神後ち破するのも併補する役力なく年月と持て又の後正祀町天皇天心年中詔社従事の絶りと雖すと雖も與りより神後事の附着するのみ終ニ又寛永十一年御信教より御修造と加へさせしむれの先和光の月よりノリ利物の英ひひほくひよかつる豈社もなほり△當社四代今爲上寺のいゆきよて甚代名と仮名より

△ある人の云は所ひし一宮食をあう甚はす社達よりく飯食神明より
舊記曰宣化天皇為民設于諸国穀倉救濟導^{アシテ}は穀食
の

補

△御身洗 佐吉社の下より涌出する水して病眼とほてて済ありと云
△納羅 あ社の難^ハ寒^ニの頃即奉納のタリトシシ候今おにより
御身よりよく納^ス

△生姜市

毎年九月十一日より廿一日までの間あつて

市^ハの產

檜^{ハク} 宮^{ハシマ} 俗^{ハナケ} 田^{ハタケ} 木^{ハキ} 鉢^{ハチ} 荘^{ハシマ}

ちよびくらぎとあく

れくやくのゆうそとの例^{ハシマ}

本朝醫方傳

姜^{ハシマ} 大穢^{ハシマ} 惡^{ハシマ} 通^{ハシマ} 神明^{ハシマ} とあ

大和^{ハシマ} 因幡^{ハシマ}

田中内記^{ハシマ} 守屋隼人^{ハシマ} 河野主^{ハシマ} 福木内膳^{ハシマ}

巫女^{ハシマ} 和泉^{ハシマ}

補

○含海山

青松寺の^{ハシマ}の山

○切通坂

坊上寺と青松寺の間の坂

○時鐘

同所より

補 繩撞^{ハシマ}

青松寺古事

- 幸稻荷 切通^{ハシマ} 並^{ハシマ} 田^{ハシマ} のうちわ^{ハシマ} と^{ハシマ} 神主長岡守前守
- 桜川 芽岩の葉青松寺前^{ハシマ} の流^{ハシマ} 田川よりく
む^{ハシマ} さく^{ハシマ} 田^{ハシマ} 桜樹多^{ハシマ} 風土記よりえ^{ハシマ} と^{ハシマ} の桜田乃
流^{ハシマ} うれくさく^{ハシマ} いりてむ^{ハシマ} いの川^{ハシマ} 一^{ハシマ} 江府
繫^{ハシマ} 事にさく^{ハシマ} い川^{ハシマ} とせと^{ハシマ} て太^{ハシマ} のや^{ハシマ} 一^{ハシマ} と^{ハシマ} かく
う^{ハシマ} まよ^{ハシマ} お^{ハシマ} ね寺前^{ハシマ} 汝入^{ハシマ} の生草^{ハシマ} と^{ハシマ} 世保^{ハシマ} お^{ハシマ} のあろ
ま^{ハシマ} て六月^{ハシマ} お^{ハシマ} 天^{ハシマ} も^{ハシマ} あ^{ハシマ} 儻^{ハシマ} と^{ハシマ} ト^{ハシマ} せ^{ハシマ} 所^{ハシマ} と^{ハシマ}
下^{ハシマ} づ^{ハシマ} て通^{ハシマ} と^{ハシマ} う^{ハシマ} は後^{ハシマ} 大^{ハシマ} ふ相^{ハシマ} 違^{ハシマ} せり實^{ハシマ} 永^{ハシマ}
ちろの江戸経^{ハシマ} 國^{ハシマ} と^{ハシマ} 人のぬ倍^{ハシマ} お^{ハシマ} 青松^{ハシマ} あ^{ハシマ} 悪^{ハシマ} 一^{ハシマ}
き^{ハシマ} 一^{ハシマ} 柳^{ハシマ} 家^{ハシマ} のト^{ハシマ} と^{ハシマ} き^{ハシマ} 又^{ハシマ} 青木甲斐^{ハシマ} ち友川^{ハシマ} 繩^{ハシマ} 住^{ハシマ} う^{ハシマ} 使^{ハシマ} あ
と^{ハシマ} くね^{ハシマ} う^{ハシマ} 海^{ハシマ} 游^{ハシマ} と^{ハシマ} へり^{ハシマ} う^{ハシマ} いき^{ハシマ} 今^{ハシマ} が残^{ハシマ} 庭^{ハシマ} と^{ハシマ}
う^{ハシマ} う^{ハシマ} 片^{ハシマ} 町^{ハシマ} と^{ハシマ} 収^{ハシマ} 入^{ハシマ} の代^{ハシマ} た^{ハシマ}
- 新馬場 青松寺の門あ^{ハシマ} 坊上寺裏^{ハシマ} の前^{ハシマ}
- 此所^{ハシマ} に^{ハシマ} は^{ハシマ} 幸^{ハシマ} た^{ハシマ} 喜^{ハシマ} せ^{ハシマ} と^{ハシマ} 享^{ハシマ} 保^{ハシマ} の始^{ハシマ} のあ^{ハシマ} 度^{ハシマ} 小^{ハシマ} 院^{ハシマ} す^{ハシマ}

補

○佐久間小路 藤房町より傍上ちまへり通西の始の小路とよ
前板石のまへり 茅長のあらは少海南の角筋を右不園を横
小浜西へ三日佐久間佐久間日向後川別二日佐久間佐久間
西の角佐久間大路を左やにて一町のあらは佐久間立人の
やきりうるゝ處のをも

○梅丘敷

日南へゆく通武田長春院後や一きどり

○三雲小路

日西へ二筋目三雲新たに後やまめゆより

○田村小路

日二筋目田村家左まみ横道とり

○日比谷稻荷

芝口三町目

別あぢ山修論 寂靜院

里彦曰万治の頃は所々傘の具をひき、藍尾丸腰といふものと
いふ山伏、もとゆはりの小き宮とおありともハ山民の森の
稻荷のけよなり。又藍尾者よ稻荷とよく信仰とひく
クスリ山伏とりてり。とのふと同よ我ハ京都のよのまゝ寂
靜院とよめせき縁りうどられモ一夜山伏とやどひとの夜

夢中には稻荷の神堂左に先づのまゝ山地の筋走す
訴へてて汝當よも與とくししゆ事朝よあ様のかくよも
へーと告ふあくひ聖教その手にいふ供ふ入る令とほり
次第と御奉行所へうつふかく神事よかくのまゝと
判てのまよ令子と下さるよくとこの代とくろめての除
解事す今よなせりとの後折れ所わくよみの射是社古
怪るやう終て既絶とくき下す終とのうきあひて並強
けよからくや免許あくへはのあくとと

日比谷三町の鹿土井

癸卯二月初午

○芝口橋 け南と日比谷と云ひ、宝永の頃
御門へまへる芝口御門よりそのまへに芝口橋と改り日比谷
と芝口町となり。享保のはめ回禄ありて御門今ハナリ

○芝井町 じーは竹よ芝井あいとよあくと芝居町也
○源助橋 じー河のあらきのあざわより

補 補

○油の井 ほ助所と子葉山あやきの内より入り

○長南崎 源助橋の流のま湖より入る

○新経座 宇田川町湖より町の所

○夷水年中すては所あ、草平沼の收入より所と成て
より次オヨ祭出の代よりそのより夷水の錢と繋がる
をあり、一ノノゾム、くいし見ゆる。

○三崎町 ひび鍋作ち鶴嶺のとみのゆきあド所
前坂の後湯水、草木長すり鍋作、後湯を後中中きあり
との所ハ今坊上寺比内より久人島源越後守鍋作布之
妻女全發あり、久人島自ら所と町とよらば之を有す。

○金杉橋 鈴原のまよめり橋

○金杉大明神 今ハ諏訪安彦主發ややきの内へあき
令杉十一町の產土神と云ふ初の附は地と令森家より給
ひやうりと美清も自由ありす今も人々も稀ぢり其

地ハ今村通より、ひく半町くぐり、ひくともや・き
のかまく、ゆうく土人のゆもおどりぬ近年今もゆきそば
神本とさきとく、御威ひとく、ゆくゆくもいづけり侍る

○土木趾所 元孫牛斗半野塙のたす所がて城一筋
○新綱町 令杉けのト湖より町

○牛尾 朝あひ町の油付昔ちく牛力あり、かくり
○雜魚場 芝さくら店の油付櫻猿すり所

補

補

補

○御穗神社 本芝通西側 両社 別當 天台 和光山本竜院正福寺
○鹿島神社 田所海手

風土記

古老傳云昔有神女自天降來曝羽衣於松
枝漁人拾得而見之其輕軟不可言也所謂六銖
衣織女機中物乎神女乞之漁父不與神女欲上
天而無羽衣於是遂與漁父為夫婦蓋不得已也
其後一旦取羽衣乘雲而登漁人亦登仙上二神

補

とある所御穗大明神ハ文明十二年の法事よりある社の庵庵の
 ち渡神なり當氏子ハ七年来庵のうち痘瘡せざり一生涯
 そのままでいたりといひて他の氏子も立到て當社の氏子
 となりる。美談よりふたり当院より痘瘡しけのち當
 又神おの小石ともうひてもいじるる所也。

今鹿野大明神、寛永年年一社浪濱に漂てありとば岸にと
 てあけらる又後一面御番の像あり。而よむれよる
 くもよもとつゝて以前の小祠の宗とあれど當別庵野
 の一社に一面三面麻野の本地にそりて前より御清々云
 は兩社を芝其外七町の產土神と號し三月十五日あ社同日
 は御穂社先拔よ風土記とて白衣の神女と登仙の傳文と
 まうる不仕といへられハ、引く後よての御祓し、さして
 やうりへ神やまがよること能國諸峰のより波瀬の水と
 稲の浦と聞て古考の傳へ言ときあはれども再拔了くハ

一ノ社紀をひよ土俗の説とすよひ一ノ皇九十七代荒
 天皇の荒は代よ一人の老翁いつりともりくこのの亭も
 すひくもくは地うけてわまらる都とひの湧きひ
 くもくいや、漁人のもてて孝母に奉るもとほとば翁
 えもひきく年久くはまく凡百金銀とえゆれ
 もと年久くもとば翁とえゆれ傳すだめとの人のも
 まえとふの若ハ尉よくとじひきくと仰ゆもとば翁
 ふきてゆくとあづひては翁海のつまく、若大の風波
 の波よあへてとあづひて一日は海よみがゆくやま
 とえせふく風波の難と避へりとぞいと翁海もつれて方
 まくおひいは惣人神とあひて尉發のえもとやまし
 すすのおく吉山よまゆるおきてとぞいと翁海もあひ
 ば社のうもあひわへりゆるはあらま文明十二年

西本願寺金剛院ノ御文
圓空へ下向の上卿は社の邊にててとくまれば上卿の
の巣とす。まことに、臺神や行など、必ずよしは尉友の文
はよくあるとしひ且中止とひそりはる。感歎のあより彼
うばとよえみい。神徳とあり。又みかの山神とあり。じ
たに下のへまいり。今之神号とまことに。お翁。
このころ南朝小朝の乱と遡るを記。鄙よもじい。石碑す
とひつよし。万室小路中納言友房卿より。かわい
会まく。ゆき。友房卿。道世の後。上州守川の下。ゆき。ゆき
ゆき。あま。老後は代々。終正中。陰陽。はる。ま
く。手。河め。二尾。まほ。今之文字。お翁。り
うち。もろ。宝曆。年。大足。のとき。む。社の下。乃。土と。有。る
方。五。尺。は。の。石。掛。あり。土。が。く。う。や。ま。い。す。あ。く。は
不。棺。と。ひ。も。く。あ。く。下。し。あり。氏。よ。神。威。と。お
き。れ。ま。と。り。△。御。廟。と。ま。り。た。す。く。り。す。

○愛宕山 別當圓福教寺

瑞林集 江戸愛宕山之草創者 台頭 = 依テ也 本地佛者
乃殿 下恭敬御持尊行基菩薩所彌刻 其來由と緯れく
むし。行基天平十年。江戸紫香樂。行化セ。日久。勝軍
地藏の小像と造安陪内親王。授ら。即彼の邑中。宝祠と建
造。安置す。今宮村。名く。ふその比。天正十年の夏。明智
信長。と。弑。の。時。台頭。和泉。小。堺。を。發。と。ま。ひ。大。和。勝。り。宇治
と。御。に。列。紫。香。樂。入。せ。ひ。多。羅。尾。四。郎。も。あ。宅。よ。や。く。せ
旅。と。は。像。と。社。を。磯。尾。村。の。傍。朴。祀。字。春。音。と。え。下。ゆ。の。人。
れ。と。供。せ。と。と。東。に。む。じ。き。狩。其。後。御。軍。あ。と。春。音。勝。軍。乃
は。と。候。せ。り。奥。別。御。進。發。の。時。も。春。音。御。供。あ。り。慶。長。八。年。癸

卯の夏の頃春音のあく神祠と宮様一勝軍の像と幸
人せんじれいづきの地可ちくやま庚子の年同系の役一勝
軍の法と脩一いつのぼりよりはるかにてやうぢハ武州橘田
の村民内藤六郎山なり即石河六郎左衛尉より命一
奉行として地と後り基と闢て役所とよひく九月より
功と竣され四日に行くも先代の御札とゆゑまぶ下院を
擧げ春音の坊ハ遍照院と号今之春福寺甚くくす條立院
今之金引院善光院仙林院華藏院法華院等と
神證字ハ春音後春香と改下野小人姓塙谷母ハ皆川氏
内藤六郎後山伏と成長えと云罪のよひにて迹と削る
慶長十五年庚戌本社幣殿拜殿閣門悉御建立わく
元和二年丁巳立是年郡王子村より百石の地を小伏す
同五年 鈎命ありて朴院退居と許す今引院おねぐ
終老すいくつとも形く圓山よりくとト毒の俊賀和尚が賜ふ

○俊賀和尚字は圓精下野國人性ハ越路氏家都宮跡三郎秋綱
の後裔とトあるの圓福寺に住す
○圓福教寺 智積院末 當山別當職 真言四寺之内
地主稻荷社 大郎坊、荒神、天王、各慶長十五年の造立
石壇六十八階 これと男女合之 右の方に女坊とりあり
△本地堂 枢篤すあ
○櫻川 山上より東南を走り琵琶湖の畔をくへ房総の山に
のこうく湖上の風景形めあす

○小身小路 田村家の前の通
○數小路 たゞこの下やに小路の四辻ある角より数あり
前板よりほくの後あれもほくの前細川を廻五十九
三のあく、故もとてせ間はくも行ひりそむる御道と

くひうへせうとあ付らか者候事を申じて事の
外かうしゆ

○二番塚

曰下きの山あすき、じきりよ

○鳥森稻荷社

やこの下

別當 快長院
神主 山田織部

朱雀天皇天慶年牛若ゑ秀郷経み多向のとき武州
よかのて船あらわれ野ざいに白孤白羽の矢とくへある
秀郷はあづけ矢とくへ来て東まどあつめくよし
遠立せんすあまぬ白孤身そりよ神鳥のいふふくち
よの教よひひ社地とおもふる橋田の郷よひのま
わうさんほうち所のヨウ地と社と遠立てと鳥夷と
神鳥のひくわくわくりてそつてその江府の
御飯堂にまくは地武土キトナリ、梓ものせふりて
人のよしよに信よ化あかねとてえみだすりゆく、内
暦の四様よひゆわたの手よてのうわうよの時よ、社の

補

比と塚、山と社の南より赤坂といふ。
○閻池 此比の前ハ鉤命よりて江刑湖の前と放くとあり
湖の前ハめぢりばの前ハ北を北、比よりく見こく
御入園のあらば池もと志げく上木と見られ、一古毫
ア代りく又は池と、一ハ鷹山の池と、一ハ後あれも
ての池と、一のまよ記り。

○印の根

湯池の邊はあり

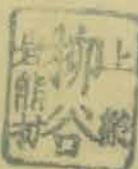
むし、浅野幸長 鉤命よりて此所の水とつきくら、幸
のほ矢崎、長雲まで、ほくのむほくとよりて水と幸
のむと人幸長の公用の下又長雲、子孫までのためして
接と多く植へ大く枯る今ニ三株あり

○桜坂

堤より麻布の方へり、ほく太後一様あり

付昔ス木の枝ある、今ハ枯りぬと枯り葉を表す

補



核、保田の村氏箕輪氏桂守一もありとより又畫と瘤
とのい核へれどノケ平岐の後楊枝と核の根よす

○葵の園 太田和辻番竹のつにとえとて有壓あゝす

○靈南坂 湯代のくの坂と市多新町の通

益南和尚ハ日向のまこと長のあら江府よくより諸人
の傳ふ序一は山所とて叶とトされ石をせらる寒々冰
十年の後一寺と造立其の核よばとト一もまつりく佛日山
東禪寺より六三と寒々冰の河ひまでには多山林寺と
とも鳳巣寺より松平寺と云ふ寺は寺の河ひまでには多山林寺
ちよえ寺ありとくハ高時西の産根取山ちよえ寺す
アリゆゑは松平千太郎名やき上方より火消は役登義
田山組せき石門あやきのむらさきち代ぢりと
○江戸見坂 円正松平千太郎名やきの東

山坂もりは戸中アえりと今ハヤキミアミムモニ

○西の窓の方

○八幡宮

西久保天台上御末 別當普門院

石清水劔落

一条天皇聖弘年中の法在寛永年中の寺延
立北

毎年八月十五日放生と云號行

○城山

西の産上波參佛ち後や一まあト

熊谷源直実城跡のくじひつよ

○熊谷櫓

円正神谷所トある不擣より

はまこと熊谷の城址とりよりそのいまとほりもあす熊谷
行家の諱名城をばまことまの因み櫓の社とひ神社と
きこつも櫓ちの神ハ無名の氏神と無名ハ武陵の私神也
私神の氏神ハ武陵大田の庄神の神社村上天皇の比

丹治の行至武州大里引よト向て神市の大丈と号スれ

補

補

補

補

補

多々標谷御席と使ひて五番詣のすりやく、秋市のみつは
さうりて候わざりも非ちく、秋市の方、秋の吉本の祖神と
めぐらしくもとを篤翁の竹へゆきよけりよりゆるゆるす
葛西又兵村の響太の木と不松市のおまきるやうす
○番神山 四所仙石越前ち後やうきのふとえ
しづは所よ小堂あり土佛の私心と毎年まづと法花堂を
へり甚後至別御は法華寺の日朗上人のゆきせーと書画
の三十番神とね外て後今よ縁縁を後よ小田原おまき家の
おれりうて社と達番神と勅清をよんて番神山より
は山々々々太田道灌の古城をうとい
○熊野 神社 別當正行寺 美台 上野本 飯倉町
○土器坂 カマツ町の坂とし一派邊綱ニ田トアリ一時
四所ともと馬工郎の引けるとあくもみめうはる、望
毛りて敷ひをきあることより深毛坂とりていり
うのりて毛坂と名坂とひ土器町とりていり名坂毛坂く
望のりて毛坂と名坂と宮ははすと志志師多くありが
○将監橋 わぬから浮上す衣あとの通
し、岡田の壁やきはあの角よりよりて
○赤羽橋 トナリ川傍上まのうろくアモ田く
赤羽ハキと赤坂りりと
○赤羽川 右引坂のまく船谷川のまく
○赤羽稻荷 別當延命院 真言 赤羽橋
○桜坂 ウケ町四はりうち本通へよほじたまの桜
うかげゆととお江戸経國よ桜町と
○朝見坂 盖あ坂の下とえあくらむ坂とあのはのうへ
望西へくあれを須代の坂はへゆとほ坂うじへあだえ
うりへくつりそとえはちあくらむ坂くねうりへあだえ

多々標谷御席と使ひて五番詣のすりやく、秋市のみつは
さうりて候わざりも非ちく、秋市の方、秋の吉本の祖神と
めぐらしくもとを篤翁の竹へゆきよけりよりゆるゆるす
葛西又兵村の響太の木と不松市のおまきるやうす
○番神山 四所仙石越前ち後やうきのふとえ
しづは所よ小堂あり土佛の私心と毎年まづと法花堂を
へり甚後至別御は法華寺の日朗上人のゆきせーと書画
の三十番神とね外て後今よ縁縁を後よ小田原おまき家の
おれりうて社と達番神と勅清をよんて番神山より
は山々々々太田道灌の古城をうとい
○熊野 神社 別當正行寺 美台 上野本 飯倉町
○土器坂 カマツ町の坂とし一派邊綱ニ田トアリ一時
四所ともと馬工郎の引けるとあくもみめうはる、望
毛りて敷ひをきあることより深毛坂とりていり
うのりて毛坂と名坂と宮ははすと志志師多くありが
○将監橋 わぬから浮上す衣あとの通
し、岡田の壁やきはあの角よりよりて
○赤羽橋 トナリ川傍上まのうろくアモ田く
赤羽ハキと赤坂りりと
○赤羽川 右引坂のまく船谷川のまく
○赤羽稻荷 別當延命院 真言 赤羽橋
○桜坂 ウケ町四はりうち本通へよほじたまの桜
うかげゆととお江戸経國よ桜町と
○朝見坂 盖あ坂の下とえあくらむ坂とあのはのうへ
望西へくあれを須代の坂はへゆとほ坂うじへあだえ
うりへくつりそとえはちあくらむ坂くねうりへあだえ

○勝安寺　土室町とすより赤羽へゆるを廣瀬川とす所
乃備江戸城より出るの付はば前より人數とすろへらかとく甚
ありハニ田へしきと廣瀬ちゆゆとある人のがりき

○真言宗

寺領百石　一石の下

○愛宕山圓福寺

同

江戸あ言四ヶ寺のうち

○摩尼珠山真福寺

同

弘法大师の草創

江戸あ言四ヶ寺の内

本多薬師如来弘法大师の作

古記云

武州芝の山中庵海

光明とす薬師如來弘法大师の作古記云武州芝の山中庵海は行すよりてのものとす
くすの山のいきまほひの太石ありて石よ向て持參り
一ノ薬師如來尊坐し御子大師のすゝと彌刻△一言叶弘

△猿人年天 つまむ後内す

△千手觀音

長久寺

補

○淨土宗

○二縁山廣度院増上寺

芝檀林

寺領一万五百四十石

人皇百一代後小松天皇御草創開山大蓮社西譽上人聖聰大和尚

第三世 中興開基貞蓮社源譽上人存應和尚

本尊阿弥陀　惠心作座像四尺

関東淨土説林炮本寺

本堂　東向　横二十間　縱三十五間

山門

寂迦

文殊　普賢　十六羅漢

經堂

開山堂

代々上人影像

方丈

鐘　^{石子サ} 尺余行く紅都才一の洪鐘

鎮守

熊野三所の社

安國殿

御別當　安立院

御佛殿

北四日

御別當　恵眼院

宝松院

五重塔

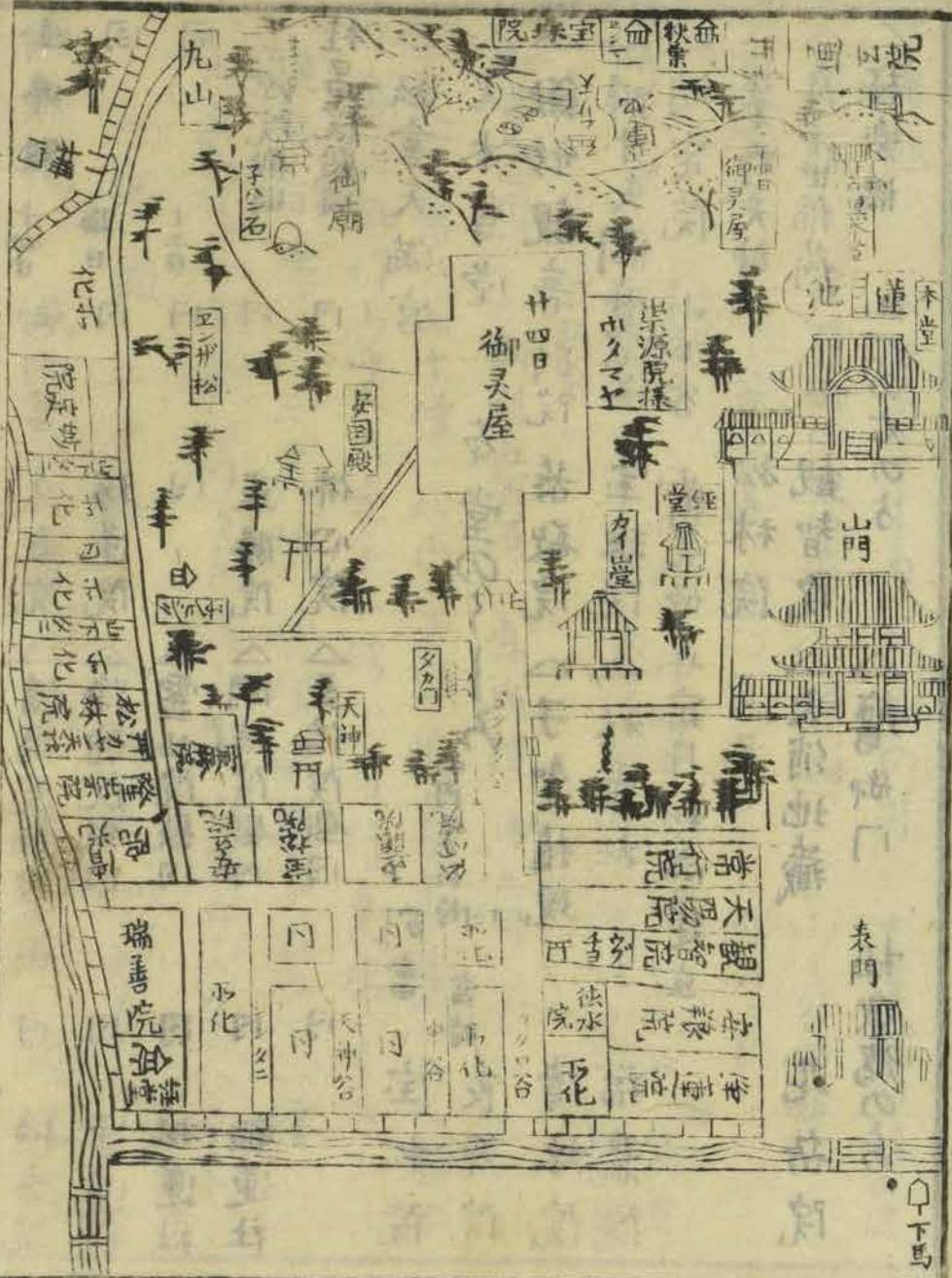
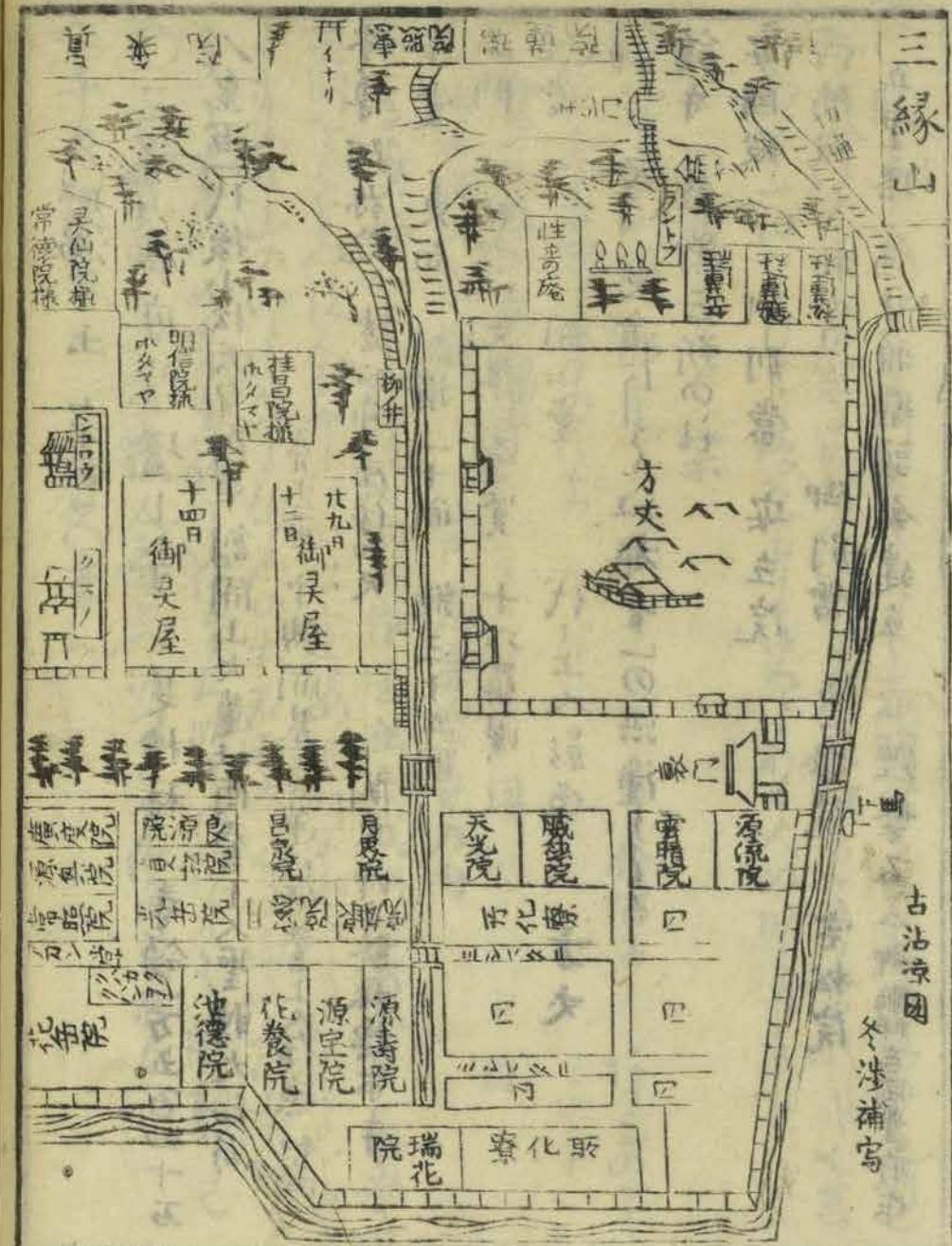
酒井雅樂頭敏建立

涅槃石　[△]御雕師吉田豊前作

三縁山

古沾涼園

冬涉浦寫



御佛殿 十四日 御別當 真乘院

△清陽院殿 御佛殿 円 通玄院

同 晦日 円

瑞蓮院 △淨德院殿 円

同

十日 円

△靈仙院殿 円

同

崇源院殿 同 円

竄勝院 △明信院殿 円

同

松蓮社

桂昌院殿 同 円

佛心院 △至信院殿 円

同

△飯倉天滿宮

別當 宝松院

△黒本尊堂

本堂の之一
山内某氏持

當時 良源院

△鍬形觀音

別院 荏教院 △子聖權現

清林院

△辨才天圓魔堂

宝珠院 △秋葉社

福聚院

△明定院 山下谷

前大僧正定月和尚建立

△茅野天神

松林院

△庄千世稻荷

觀智院

△大消地藏

花岳院

△極樂橋

山門の右の方

△鷹御門

極樂橋のあ。

△蓮池 本堂の之一

△柳の井 本堂の北卯塔の邊

△糸模

△四日御佛殿の前

△圓山

△山下谷の西

△圓座松 山下谷の邊

△羅漢石像

△圓山ニアリ

△所化寮

△三島谷 同中谷 神明谷 同中谷 同北谷 袋谷

△天神谷 中谷 南新谷 山下谷 同中谷 同西谷

△御常念佛

御料五百石 惠照院 淨土律

△一文字席 五十僧

此内字は二萬より十二僧ハ一山大衆の

△番役執行ゆく上座十二僧と同行支席と云

△横木間席 三十八僧

△縁側席 六十二僧

△大衆凡三千余ありト云誠ト靈山會上トヨヘキ

△塔頭三十坊 各御朱印ゆ

源流院 威德院 雲晴院 天光院 月界院

昌泉院

貞松院

良源院

光岳院

月密院

良雄院

源室院

源壽院

花養院

他德院

廣慶院

常照院

源興院

花岳院

淨運院

安樂院

瑞花院

天陽院

觀智院

常行院

心光院

常念佛別院

補

は心光院宣當斗中芝新堀爲へりのむれの處の所と書記
元禄七年才卅二世念蓮社貞譽上人了也自然和尚大僧正より
任してち相續て代々大僧正なり

開山因譽上人ハ下忍國千葉の人父ハ千葉陸奥守平貞胤母
新田氏之稚名徳千代丸より九歳ノリ千葉寺より出家一
高言寺より至徳二年了譽上人傳通院開山の才子と成澤土
門より後武州多摩郡貝塚より賜地と傳く一字を遺さず
今之の増上寺より承亨十二年申七月十八日寂告七十五

第二世ハ明蓮社聰譽上人西仰和尚と号す橘陽法語寺開山。

三世ハ音譽上人之江列甲賀の人望月朴記の子と宝徳元年三月
寺主となり太田道灌と交甚厚一一日衆十人ノリ云

看、天地清濁色 五妙境界淨刹臺

三惡火塔阿鼻底 一機不轉古今更

大宅とハまよや少く小車のけりとて又とはよりあくまでも

言おハ御室とす承き大車に乘一とく去世のかく所し
当山ハひし一見ゆく所て光明寺とひいと見ゆるより

今鞠町平河の邊く唐長のけめ芝すつゝ其はあり
坊上寺と成る多摩越後中野の内館とりんとく

中興開山源譽上人、武州由木の人父ハ由木左衛原利重也

由本ハ武州在名七堂の牛頭堂と性ハ日奉り日奉宗頼
内舍人宗親其子宗忠西堂の祖く日文と号す矣余十金
はありある源利重もあひ得て日奉利重なり

天文十三年正月生 片山宝臺寺にひきかへて大正十七年
八月ゆ山雲呑言上人より死す 十二母の寺主となりる

翌十八年 御駕と門の辺に辯り承く御苦提所となり
慶文長十己年門前の老翁和尚よりひい今夜吉多ヒ密す
（師微笑）吾其事と嘗々と錢二十疋とあよ老翁
もうひ語ていはく まよ止まざれ陽の座あるまじん
まよあくの事（師の曰代）

翌日 鈎命あり大仰藍と云ふ縫ち（）

同 十三年常紫衣勅願寺の 緯旨と賜る

同十五年七月十九日普光觀知國師の号と賜る
元和六年十一月二日入寂

于時七十七齡

十三世正善言上人廓山和尚、甲州の人父ハ高坂禪正之甲州八代
郡市部村ト澤正尼生れ（）

元和九年 山門を改達

十四世了的上人寛永三年九月十五日大御墓

崇源院殿一品昌日善言和興仁清大禪尼

堯御より即導師成万部讀經の大法會を行ひ

万部御法事淨家（）

寛永九年照善言上人了學和尚經藏と創立又三鷲中谷の

兩谷と縁山の境内（）

万治二年露白和尚當山の（）寛文二年九月麻布一本松より
退隱（）代（）被所と退隱の地（）

定譽言上人隨波和尚の付寺領四十石塙（）又本堂方丈諾堂
（）及（）復（）（）も 鈎命に（）（）（）

（）（）等（）（）（）（）（）

（）性壽庵 方丈の後の方（）小堂（）俗薩摩堂（）
尾州清須城主松平薩摩守忠吉君の御位牌あり御法名
性高院毅と稱（）（）（）（）（）

（）（）（）（）（）（）（）（）

とけりの殉死士人の石塔なり前板性高院と曰ふあり
あ寺草創の比貞塚なり後日は谷の毛よ移す安長三
戌戌年八月今の大山より下りて見ゆる所の傍
松平越後守俊也が立石なりとわれば今平河大神のあと
元山との間にあらむも今も遠の内核あり河と傍上寺の四代
ひもうるの代より今も増上寺の持主なりといへば是
より奥深となり前も廣きなりたりとくや

○光明山和合院天徳寺 知恩院末 寺領五十石 繁衣地 西窟

人皇百六代後奈良良天皇天文二年草創

知恩院宿寺
始号天徳庵

用山三蓮社稱念上人中興用基十二世晃譽上人

寺中

晃譽智德

攝取院

不動院

光岳院

繁桂院

金松院

金松院

宝陽院

宗立院

教定院

宗圓院

智相院

長光院

於興院

榮壽院

崇福院

崇圓院

長光院

於興院

長谷院 淳品院

○西谷山壽向院大狼寺 因末

寺領五十石 因末

人皇三百八代後陽成天皇慶長年中草創

開山儀誉上人 本多運慶作 寺中 壽向院

○田中山相福院西應寺 墓上末 寺領十石

金杉

人皇九十九代後光嚴天皇應安元年草創

開山明賢上人 中興才十六世存問和尚

本多阿弥陀 忍心作

ハ鎮守 正一位 稲荷

天正年中 台駕當山入御し開基の本由御尋わりて

寺役御寄附すまほ存肉和尚の附 鈎命によりて一夏九旬の

中法幢とて一百餘人の化して宗風の実際とある
當寺傳安の開基よりこのう三百余歳を及ひ境内を廣し

△朝日の松 △あさかけ松

ハ火除の松

ハ火除の松 墓内より

宝晉のああ寺回禄よりては松も焼く

も焼く

も焼く

も焼く

塔頭 定林院 義受院 正定院

○演暢山法音寺 西魚ままだ芝

○影向山西信寺 塔上本 が芝

○福壽山宗光寺 日

○十劫山成光寺 和恩、日

△雲竜の茶所山東より

○海見山智福寺 日

日

補

○心光院

三縁山塔中

芝引塲

△常念佛

△千躰堂

芝引塲

△佐久間、ト女ノ流あり 大傳馬町同屋佐久間平ハ、ト女ト
ナケトシムのゆく佛と信し、水盤トテ御宝座の御子、
△件の流と苗院へまし奉り、縁起あり

△苗院ト貞元、伊豆の木傳あり、深のあら坊上きうち

△苗院山内涅槃のきより、宝曆中苗引(ちびき)

○布引親音堂 うれども苗院と同付よ給ひる

日刊

慶長二年丹羽直良侍、良重奥列ニキ松原左國の附、向う日
城ト出られ、よ鶴野道者の曲居、今まむけり行とアリてはる。誠よ
後足、承と感嘆、ノ、農人、ト、おの名の自あふと、お出そり
鶴野、義経、波奈、ケモ、序、アヘ、ノ、後、アヘ、ノ、人、ノ、長重のふ
やよも、ノ、モ、キ、モ、キ、モ、國、モ、信、ノ、下、の、名、モ、ノ、列、名、モ、道、老、モ、
テ、秘、伝、す、う、も、秘、傳、る、人、數、モ、ア、ヘ、ノ、ヒ、ト、終、ヨ、江、戸、ノ、站、す、ぬ
而、石、料、ト、キ、ミ、レ、計、と、追、ハ、セ、ト、モ、小、内、布、一、陽、ト、後、備、の、院、モ、ア、方
ヨ、ヒ、シ、内、ク、モ、の、布、一、文、字、モ、教、リ、か、モ、乃、者、の、名、モ、改、テ、布、引、
早、モ、セ、ト、モ、大、坂、御、陳、ト、モ、ば、け、る、よ、石、さ、で、る、モ、忘、イ、テ、ヨ、寛、永、九
年正月廿四日御他界の後御俗世の間すくい、御松庵のて
ハ、シ、モ、御、馬、を、私、く、と、て、房、上、ま、よ、拏、セ、ル、レ、今、の、涅槃、の、サ、リ、
ハ、シ、の、上、其、ナ、ろ、ハ、境、内、モ、芝、原、ナ、リ、
ら、シ、ト、る、個、勘、合、ド、イ、ル、者、モ、方、丈、ヨ、リ、附、寺、モ、リ、ト、ラ、ヨ、毎、月、本
四、御、名、代、多、指、の、納、セ、ト、リ、
四、御、名、代、多、指、の、納、セ、ト、リ、
四、御、名、代、多、指、の、納、セ、ト、リ、
四、御、名、代、多、指、の、納、セ、ト、リ、

御名代と云々付勝と於ての後ゆうこするや一度も通ひ
るやうに諸人あつらへ感歎と流す年と於て布引寺もちは一
山のうちあるたゞよりと密教のあつら境内はほく幅尺余る八尺
窓を除くは仏形を以て石塔と建つゝ行者文周方丈より清
ての不快と申すと堂と造馬頭詔書と奉立すが
布引の記系と申すが、又文周の代と持としむる人がうき
ての記系と申すと申すが、又文周の代と持としむる人がうき

補

○葉師堂 切通山きりあり 別當 一經院

シレモ先年山内よりは所へ

補

○山伏院 場上寺ニ属る谷の内大木根二十九本來歴を有す

○禪宗

○万年山青松寺 曹洞宗江戸ニテ寺の中

ゆきこの南

用山雲巖後徳大和尚

文明の頃青松何某雲巖和尚と号依て建立やしゆるの名字

と寺号とれ因地ハ貝塚なり天正の代は北より来る
塔院 清岸院 考證院 は叟院 吟忘院 忠岸院

萬寺ハ青松宮内より人建立てよりと曰ふゆりて
くよ日久院青松寺より少時代ハその躉町貝塚の南の邊
一因よりあるき山内よりそぞろの山河ハ其長後をくへ

○勝林山金地院 五山僧錄

寺領七百石

芝切通

用山大業和尚 大覺禪師空弘

元朱京都 南禪寺の金地院の宿寺ナリ

尚寺境也ハ元賤坂家の下にきしきみをとハ御城内より
ノ根 大もへ境也ナリ御城内より東極也ナリと
ハ本子聖觀音 唐佛 每月十八日詔音懺法あり

○金龜山福臨光寺 音松寺 西庵 ○真珠山光宝寺 寿光寺 切通

○東雪山青竜寺 日

切通

○一向宗

○万運山陽泉寺 儒金寺海源院

芝切通

○峰竜山澄泉寺

高田派

湯池の上

開山

塔れ

常玉寺

正福寺

林誓寺

當寺淺井称念寺同唯念寺あれと田沢の江戸三ヶまとい
ふじあ寺と橋田院象寺より

○松林山安永寺

西末

寺中津名寺

芝令杉

○梅上山光明寺

日 橋む椿水仙社上り

西の木下

○南江山經覺寺

日 令杉

○長徳寺

西

か芝

○安永寺

日 向中通

○勸勝寺

東

芝

○光圓寺

日 西庵

○光明山法泉寺

日

西の木下

○根取山専光寺

日

○向陽寺

日

令杉

○常陽寺

日 令杉

○靈山寺

日

令杉

○德念寺

日 日

○法圓寺

日

○存明寺

日 日

○靈山寺

日

○離欲山正念寺

日 日

○法華宗

日

○德聚山圓殊寺

日

○妙光山吉澤寺

なま

、候

○妙光山吉澤寺

なま

○榮門寺

日

○池上本門寺宿寺

なま

○池上本門寺宿寺

なま

○松林山正傳寺

中山末

令杉

△毘沙門天

傳教大師の作

蓋造の像

と

毎月寅の日ハと

アリケ多賀

御屏集にて近年正月初更に候うとのハ大

き次明

の

の門前にて燧石と申めて候る

、洛

小舞の山界の

よ正月に寫る

がくよ燧石と申す

、番

いもは日しのまづび

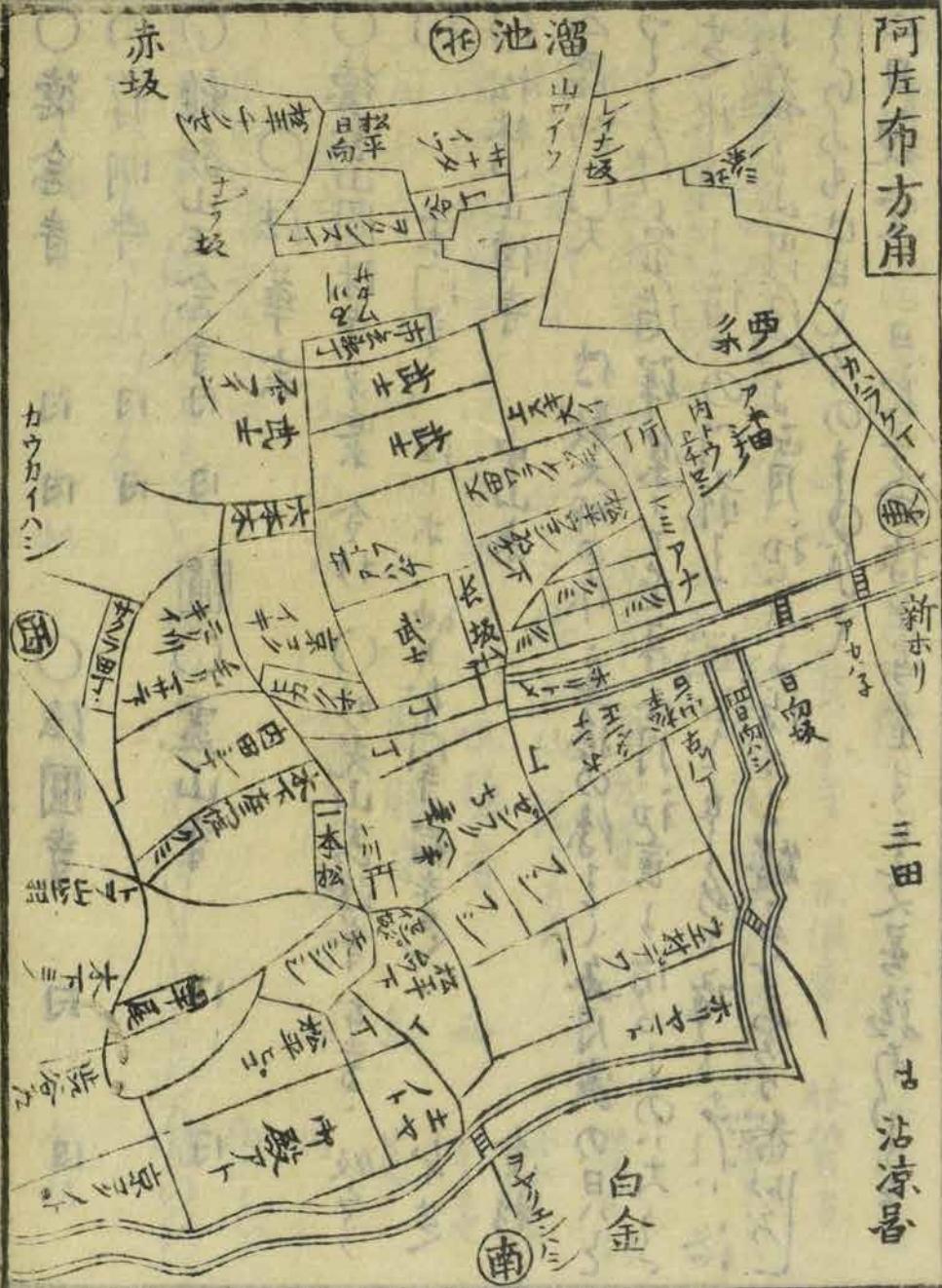
△日親堂

日次上人の像と寺をすまを又考證ありと

阿左布方角

三田

ま沾涼暑



(十六) 麻布 又阿左布と書 平尾

○ 麻生

又 麻布を名淺生付

塩土 梅田 谷町 市玄湯町 六本木

上町 雜色 あわ いつれも所の小ち 麻布七村より
麻布ハ矢盛庄七郷の内ヨリ古き名也 麻布七村より
近きよりやりより右あ板の七村は市玄湯町谷町の鄰ハ
町よりてのふちうねじろぬヘ

○ 幸園谷 市玄湯町の下 東壁あれと

○ なゝむと坂 市玄湯町より今井へ行谷町の坂へはきとりへ
はきとり坂東むかしてなるいからのえとそくくらふ

○ 紅葉屋敷 市玄湯町 住着候津波屋一きとりと

○ 荏稻荷 市玄湯町よりと古麻子より今いつのふのふ
よやあれしに不動院の稻荷ありとてその人いづ

補

補

補

補

補

補

補

- 五臺山不動院 真言 長谷小池坊木門ある稻荷の社あり
- 合龍前坊谷 おとす邊上杉家中やきのうへろしきの
崇源院殿御葬禮の時茶毘の御火葬場庭一町ごと其
あら坊上寺の下を走る後より白令今里村へリードル
- 谷町 あさの某よりりつ谷へ昔は若木風呂や越中川と
三屋谷 谷町の先へひりはふ家三軒なりしかりと
御草司町 谷町より南教坂の方へれむ
- 久園稻荷社 谷町の端より 別當岸照山林昌寺 三宝院孤
翁社 四辻ハ源流こそ所より神木の松今にありト
偏地の上葵の岡をあへやくふ左の方は櫻大森ありけんじゆ
○觀音堂 日本 禅宗 高岩石山永昌寺 三田坊室あま
○長坂 太田原出雲ち坂やきの町
- 坂の上より店た京を坂やきの町と今ハ市庄奉方入組
のやきと万代一坂よ麻布氷川明神しりて大社より出所
- 長坂 甲府市中館址 長坂の上今よき石壇の稻荷の社あり
- 世延稻荷社 長坂 根付神主伊吹左門持
え右より河へ石階うきゆ俗よき稻荷の社あり
- 土取場の址 元甲府市やきの山松平山城ち坂やきあ
入坂の西の方細川を中やきのあざ土くり場と
○唯狸穴 長坂のひりこも坂まれもたまみ穴と
そくりつひり坂とハハナシヒリは坂よ唯狸の徑りう大ちる穴
うりこも或は上吉洞か まづ穴と云ひて設わいと
○六本木 ひづく不のぎ少の方ひりち本のねあり

補

中

○芊瀬坂 日ヶ産より山本へと坂坂下よ稻荷の社
あり麻布氷川の傍を毎年秋より近在より芊とする所附木
いぢりの文のものもとて毎日市ありかよひづ

○日南窪 長坂の西毛利政次所後やきの町

○梅田町一名百姓町 ひづみの西むし御入岡の時内侍櫻内
の百姓よはすて代地と下され百姓の町造りよりりゆく

○霞山稻荷 楠田 天台別當霞山觀明院 上野本

昔公嘉吉より引地の地ようじゆ今も久保町辺築あるく

○朝日觀音 内河淨土一向山三光院専称寺 上野本

用山院寺は廓上人 三光院清心比丘の開基也

がるゝ者者九の叢もりむけ付也あはすニモ院は丘尼寺の
像こ此ニ支院もみ織田信長の婦筒井伊達ち吹きの姫
へ尼と成増上也十六世院寺上人のすゑ也

○子安菜師 日本高言瑞陽山正光院 まゆ山正智院末

惠心僧院の作人皇六十六代一條天皇降誕の寺祈願佛也

○一本松一名冠の松 麻布 ○相生坂 一本松のあやめや

大木の松よ行連とノリノリ天慶二年源經基王孫列平ね門の彼
よへぬの付御川と號て今のがくらひは御よれて氏家よ止宿
ううきの絹玉臺殿と柏の木すりりてほく甚や日暮才と麻の
がくらひのすくへと高象の土木としきとれど冠の松りひそ
彼氏家よ後す轉り精金寺へ親多院へ名すと今勝谷へ幅よ
福寺のを号え 又天正のころ娘妹ふくさは松よ呪唱一符と寺り
それう姑の下の松よりへ又小野篁の松小松よ設もあり
一本松よ經基王の末歴ワクのひつ文候て後もかくも
病といひよくて竹扇よ酒とへくがくもいよば松近年丈丈よ
がくりて桂の今ハ古木のよすれまつりてあまと桂よくも
○栗飯沢 日本の栗飯殿とまくせよよりのよもよ

○増上寺退隱の地 一本松

一本松

○氷川社 麻布 真言 あらま 別當徳乗寺

苗木の庵土神 〇 祭九月十七日

は神 麻布 熱湯ちぢりとひい 大社 〇 まゐる
文明七年中太田道灌武州一宮大文の氷川の神と勅請と

苗社旧地六麻布切通 〇 今塔上寺退院の地より社地二千坪余り一木ねば苗社の神より一木ねの板ハ

いろくあれもとの松の圓連ハ社古より苗社あるより神
事わざれへん私をねて苗社の神事とひへき

補

○赤廣稻荷 麻布坂下町の舊き 秋主 中村日向守

慶也 〇 中苗所事創の法事と神およ柳 一木とあり枝葉あさ入根大よひ多れ これとまつりて世人未

度のまじひうり只もやく神年のやうにむかひ

補

○竹町稻荷 旧跡

別苗

法院

補

○兜稻荷 麻布前町のあり

○仙臺坂 松平陸奥ち夏下叶きの所

○日向橋 わかよる ○ 日向坂 三田へり木の坂

毛利日向ち夏下叶きのあり
○ 御殿旧地 久保のころ麻布御殿とあり今ハ武士やまこ
は北眺キ他にすくいり故富士見御殿とひやせ
○ 御茶園の址 同西には北へ右より御殿あり
茶園小石川へ

補

○ 富士見稻荷 本の河口あり
○ 平尾 町人石井入組の村 世よ廣尾へり

○ 稲荷社

同上

千種寺の精

△遠印の楓あり。今、枯れ又根と葉の根より一丈ばかりで十
文字よりあい。木とちあひて放すまゝに見り入る。かく
○御葉園橋 一名相模夏橋。白令御塙より土屋お持ち後
下を走のあります。俗名も夏は。とります。

○御葉園坂 四五の坂。御葉園。かく又お持ち後も見え
○新堀 元禄のはじめから上ま南の村森より掘通し
水上、造谷川よ通を笄橋の川も流れり。
○十番 四五く右壁。の附十番の榜。柱。柱。か
くひもれり。はやる場なり。代下す。むすび。けり。そぞれ
○龍土 麻布百村町の西今井つてくは比。あほ。あれ。も
竹。角。一。に。寛永の元。は代。の。新。く。ど。り。て。金。施。晦。冥。か
く。い。云。俗。流。す。て。何。す。云。あ。せ。と。り。ア。モ。そ。れ。す
は。地。名。モ。岩。下。も。あ。う。て。彼。下。ま。で。ハ。猿。人。ト。云。接。波。ア。リ。川
也。す。る。漁。場。の。猿。師。り。と。か。ら。少。少。ひ。と。云。狩。考。ア。

八月